

# チェルノブイリの子どもたち

チェルノブイリ子ども基金 NEWS No. 82 2010年9月25日発行



## 2010年 夏

ベラルーシ  
児童健康回復センター  
「希望21」

腫瘍病及び血液・リンパ系の病気の子どもたちのための特別保養



皆様の募金のおかげで、今年も子どもたちを  
保養に招待することができました

## 腫瘍病及び血液・リンパ系の病気の子どもたちのための特別保養 ベラルーシ 児童健康回復センター「希望 (ナデジダ) 21」～2010年夏～

報告 佐々木真理

子ども基金は13年前から、チェルノブイリ被害児童のための特別保養を実施しています。当初は甲状腺ガンの手術後の子どもたちが対象でしたが、3年前からはさまざまな腫瘍病、血液・リンパ系の病気の子どもたちも保養に招待するようになりました。子どもの甲状腺の病気はピークを過ぎたと言われてはいますが、一方で脳腫瘍・腎臓ガンや血液の病気が増えています。また、多くの子どもたちは他にも、別の病気（脊椎側湾症、喘息、胃・肝臓・心臓の病気など）をかかえています。「希望21」の所長 マクシンスキー氏は言います。「来年でチェルノブイリ事故から25年になりますが、その影響による被害者、特に子どもたちへの支援は今後も必要です。子ども基金の協力を得て、子どもたちへの支援を続けていきたいです」

実施期間：2010年7月22日～8月14日

参加団体：「困難の中の子どもたちへの希望」ゴメリ市  
「チェルノブイリのサイン」ミンスク市

参加人数：子ども34名（8歳～17歳）・引率者3名（うち33人はゴメリ市とゴメリ州から、1人はピンスク市から参加）

参加者の内訳：血液・血管の病気15名（うち白血病3名）、甲状腺の病気7名（うち甲状腺ガン2名）、脳腫瘍4名、膀胱ガン2名、腎臓ガン2名、皮膚ガン1名、骨のガン3名

（手術や一定期間の治療を終え小康状態にあり、医師の許可を得た子どもたちが参加。ほとんどの子どもは定期検査や薬の服用を続けている。）

<児童健康回復センター「希望21」>

「希望21」はベラルーシの首都ミンスク市の北西に位置しています。ベラルーシとドイツのNGOが運営しており、子ども基金もセンターの設立当初から協力しています。これまでに建設費・修理費の援助、救急車・バス・医療機器・文房具・楽器・コンピュータなどを寄付しています。ここでは1年を通して放射線汚染地域の子どもが学校単位で保養しています。この保養費の一部も支援しています。夏休みの期間中は、外国のNGOなどのプロジェクトが行われます。また数年前から、ベラルーシ国内のスポーツクラブや語学学校の合宿場所としても



利用されています。湖のほわりにはセンターのツーリスト部門が運営するテントもあり、旅行者を受け入れることでも運営費を確保しています。

#### ＜子どもたちの健康回復のために＞

子どもたちは各々の健康状態に応じて、マッサージ・水治療・運動療法・塩セラピー・アロマセラピー・薬草療法などの医療サービスを受けました。また、シンセサイザー・コンピュータグラフィック・木工細工・藁細工・絵画・工作・折り紙などの教室に参加しました。体育館や野外ではバレーボール・バスケットボール・卓球・バドミントン・サッカー・サイクリングなどのスポーツ。午後は、子どもたち自身が参加するコンクールやコンサートなどが行われます。毎日退屈する暇がないくらい、いろいろな体験をすることができます。到着直後は家を恋しがって泣いていた子どもも、数日経つと友達ができて生き生きとした表情になり、笑ったり駆け回ったりするようになります。

参加した子どもたちは、手術や化学療法などの治療を受けた後も、定期検査や薬の服用など、常に健康管理が必要です。汚染地域に住んでいる彼らにとって、汚染のないサナトリウムでの保養は、免疫力を高めるのに大変重要です。

病気そのものは回復に向かっていますが、精神的問題が起こる場合もあります。いつも不安を抱き自分に自信がもてなくなる、さらに沈みがちにな

り、人とうまくつきあえなくなってしまうこともあります。また、家族の問題を抱えている子どももいます。10歳の男の子は、「僕にはお父さんが

いない。5年前に死んだけど、悪いお父さんだった。お酒をたくさん飲んだし、僕やお母さんに暴力を振るったりした・・・」と話しました。母親がアルコール依存症で家を出て行ってしまった家庭もあります。骨肉腫を病んだ12歳の女の子は、常に

転移の危険と向き合っています。到着直後は食欲がほとんどなく、青白い顔をしていました。彼女は個別にカウンセリングを受けました。引率者たちは、食堂で子どもたちがちゃんと食事をとっているかどうか常にチェックしていました。最終日が近づくにつれ、その子のお皿の食べ残しは減り、顔色もよくなっていきました。他にも、好き嫌いが多くてよく残していた子どもも、なんでも食べるようになっていきました。

引率者として参加した3人の女性たち、グループ担当のセンター職員、彼らは本当の母親のように子どもたちの面倒をみていました。センターの小児科医、医療スタッフたちも、子どもたちに優しく親身になって接していま

した。きれいな空気、安全な食事、適切な治療の他に、自分を本気で心配してくれる人との出会い、新しいことに挑戦して自信をつけたり、友達をつくって心から笑ったりすることも、健康回復に大きな役割を果たします。

＜参加者の感想＞○友だちができて楽しかった。



食堂はいつもおいしい料理が出た。特に魚のスープがおいしかった。(アンドレイ 男・8歳・ゴメリ地区)

○素晴らしい保養をありがとうございます。日本のみなさんにお礼を言います。(クリスチーナ 女・12歳・ゴメリ地区) ○ほとんどすべての教室に参加した。



いろいろなことを体験できて楽しかった。(ヤロスラフ 男・9歳・ゴメリ市) ○病気の子どもたちを招待してくれた子ども基金と日本のみなさんに心から感謝します。「希望21」はベラルーシで一番素晴らしい保養所です。(引率者・ゴメリ市)

(最終日に行ったアンケートには、ほぼ全員の子どもたちが「この保養に満足、来年もまた参加したい」と答えました。)

#### <「希望21」副所長 N・イレーナ>

夏の期間中は一般保養者も多いですが、私たちは汚染地域の子どもを最優先して受け入れています。受け入れている子どもたちの健康状態を見れば、汚染地域の子どもたちに病気の多いことが明らかです。汚染地域の子どもたちに多い病気は次のとおり。①呼吸器官の病気(喘息・扁桃炎など)②消化器官の病気(大・小腸)③心臓・血管系の病気(心臓欠損など)④脊椎測湾症⑤骨折(ささいなことで骨折をする。ストロンチウム※はカルシウムと似ているため骨に吸収され、骨が弱くなる。)これらは、私たちがセンターに受け入れた子どもたちを検査してわかっていることです。国はこのような事実を公表していません。インターネットで保健省が発表している病気の統

計を見ることができますが、そこからは何もわかりません。しかしベラルーシの子どもの慢性的な病気は明らかに増えています。非汚染地と言われているミンスク市ですえ病気の子どもは多いのです。私はたまたま保健省の知り合いから、2005年の統計を手に入れました。これは内部秘密文書でした。その統計からは、明らかに汚染地域の子どもに病気が多く発生していることがわかります。白血病や甲状腺がんのピークは過ぎ、チェルノブイリ前と同じくらいの発症数になったと言われています。現在それらの病気にかかる原因は、



環境条件の悪化のためとされています。しかし、それにはチェルノブイリ事故による残留放射能も含まれます。

2007年にウクライナ・キエフ市で開かれたチェルノブイリ国際会議に参加したとき、ベラルーシの白血病専門家は「我国では白血病の問題はもうほとんどない」と発言しました。ベラルーシのある病院の医師と話しているとき、手に入れた統計の内容について触れたら、その医師は急に態度を変えて、「そういう質問は公的文書でしてください」と言い、それ以上の話を拒否しました。残念なことに、ベラルーシのグロドノ州に原発が計画されています。国民は反対していますが、大統領は計画を推し進めています。子どもたちの病気の実態を隠しながら、このようなことが進んでいるのです。(※ストロンチウム90の半減期<放射能の強さが半分になる期間>は29年)

# КАЛЕНДАРЬ НА 2011 ГОД (ЧЕРНОБЫЛЬСКОЙ АВАРИИ-25 ЛЕТ)



2011  
チェルノブイリ  
25周年カレンダー

## チェルノブイリ25年 命・自然

撮影＝広河隆一  
Photo by Ryuuichi Hirokawa

2011年はチェルノブイリ原発事故後四半世紀という節目の年です。

「子ども基金」は1996年から救援カレンダーを制作しています。

その歩みをたどって、本カレンダーはこれまで表紙に使用した写真を中心に構成しました。

地球上のかけがえのない「命・自然」が脅かされることのないよう

これらの写真は「生」へのメッセージを発し続けます。

定価：1300円 送料2部まで200円 3～9部まで実費（10部以上1割引/送料無料）

カラー/サイズ縦51.4cm×横36.4cm デザイン：スタジオギブ

お申込みやお支払いについての詳細はチラシをご覧ください。2010年の収益は186万円でした。

大好評のベラルーシ・ウクライナの雑貨 新製品入荷！

～物販品の収益は子どもたちの支援になります～

「マトリョーシカのマグネット」1個 350円  
ハンドメイド。およそ縦6cm×横（最大幅）4cm。  
飾りとしても、またメモを貼り付けたりするのにも便利です。

「マトリョーシカのキーホルダー」  
1個 350円

人形本体部分の大きさ：およそ縦  
4.5cm×横（一番太い胴の部分）：  
2.7cm。ホルダー部分を含めた全体の長さ：11cm



「しおり：ベラルーシの女の子」  
1枚 350円。ベラルーシ製ハンド  
メイド。縦14.8cm×横4cm。台紙  
は紙製、模様部分は布。ベラルー  
シの民族衣装を身に着けた女の子  
がモチーフです。

住所 電話番号 氏名 希望品名と数量を  
明記の上、FAX・TEL・メールでお申し込みください。基金  
のHPからもお申し込みいただけます。送料実費。

カレンダーのバックナンバーご希望の方は、事務局  
までお問い合わせください。

（ただし、在庫がない年度もございます）

## 2010年3月 家族訪問 (その2)

報告 佐々木真理

2010年3月に訪問したベラルーシ・ゴメリ州の子どもたちについて報告します。これらの子どもたちについては、4/24 “チェルノブイリ24周年・現地最新報告会(東京・文京シビック)”で報告しました。2010年8月に訪問した家族については次号で報告します。

L・ロマン 2004年生まれ

ゴメリ市

泌尿器の先天性異常。尿管肥大、慢性腎盂腎炎、左腎臓形成不全。これまでに手術を3回(生後3ヶ月、7ヶ月、1歳10ヶ月のとき)受けている。ミンスク市の小児病院に年に1-2度の検査に通っている。服用している薬の費用は1ヶ月で約12ドル。

母親の妊娠中、超音波検査で子どもの左腎臓の異常が発見されたが、右腎臓は正常であり、特に心配ないと言われた。しかし生まれてすぐ腎臓の超音波診断で、腎臓の左側形成不全、右側は肥大と診断され、3ヶ月後に1回目の手術を受けた。普通、まっすぐでなければならない尿管は曲がりくねっていて、正常よりも太い。ロマンは第2級障害児に認定されているが、チェルノブイリ事故被害児認定はされていない。体が弱く頻繁に感冒にかかるため、保育園に通うことができなくなった。定期検査の結果次第で、再手術が必要になるかもしれない。ローマは絵を描くことや、ブロックや紙のおもちゃを組み立てる遊びが好き。父親が家の中で何か修理をしようとすると、ローマ



は道具を手渡したりして、必ず手伝う。

母親ナターシャ37歳。ゴメリ市生まれ。最近、心臓の病気で入院していた。現在も薬を服用している。甲状腺にも問題がある。左側の頬に子どもの頃から青いあざがある。モスクワであざの手術を受け、放射線照射療法を受けていた。そのときチェルノブイリ事故が起きた。チェルノブイリで放射能も浴びているだろうから、これ以上放射線治療を続けないほうがよい、という理由で、治療がそこで中止された。最近あざが膨らんできているため、心配している。父親セルゲイ34歳。建設労働者だったが、背骨のヘルニアの手術を受けて、働けなくなった。手術後少し楽になっているが、以前の仕事はできない。足にも痛みが残っているため、療養中。

「生後3ヶ月でローマが手術を受けたとき、病院で一番小さい子だった。今病院に行くとき、もっと小さい、生後数十日の子どもなどが手術を受けている。ある女の子は背骨に頭ほどの大きさのヘルニアがあり、足先は反対側を向いていた。胃の病気を持つ1歳8ヶ月の子どももいた」夫婦は病院でそのような子どもをたくさん見ているため、二人目の子どもを作るのが怖い、

と話した。

母親ナターシャ「チェルノブイリの影響はもちろん残っていると思います。うちは家族全員が病気になり、みんな治療や薬が必要になってしまいました。しょっちゅう病院に行っています。以前は汚染地域と言われていたところが、今はきれいになったと言われるようになりました。高濃度汚染地域の牛から作られた、牛乳・チーズ・ヨーグルトなどが、いろいろなところへ運ばれ売られているのです。今は誰も放射能値を調べていません。もしこのことを言ったら、仕事や地位を失うことになります。大人は関節・心臓・胃の病気が多く、子どもは脳腫瘍や、白血病・貧血など血液の病気が多いです。みんなチェルノブイリの影響だと思います」

D・マーシャ 2006年生まれ  
ゴメリ市

先天性の血管（顔・首・胸郭の左半分）リンパ管腫。生まれたときから左の頬に青いこぶがあった。それがだんだん大きくなり、顔と同じくらいの大きさになり、左の胸にくっついてしまうまでになった。外科センターで手術を受け、その後小児ガンセンタ



ーに送られた。ミンスク市の病院で3回手術を受けたが再発。両親はモスクワの専門病院を探し出し、昨年1月に入院した。左顔面に

超高周波による血管リンパ管腫破壊の治療を受け、1ヶ月間入院した。マーシャが入院中、母親はベッドの横の床で寝泊りした。モスクワの病院には、今後も年に2回検査に通う予定。

母親エレナ「チェルノブイリから24年たっても、影響はもちろん続いていると感じます。小児ガンセンターに入院していたとき、たくさん病気の子どもとその母親たちを見ました。治療が終わってよくなって退院した子どもが、再入院しているケースもあります。もし自分の子どもが病気にならなかったら、チェルノブイリの事をあまり考えなかったと思います。自分がその中に入って初めて感じます。入院していたとき、マーシャは治療の影響で髪の毛の抜けた女の子をなくさめていました。私とマーシャは、他の子どもたちも健康になるようにいつも祈っていました。しかし病院ではマーシャの顔の歪みを

笑う子どももいました・・・」マーシャはよく笑う、活発そうな女の子。今はまだ小さくてよくわかっていないが、もう少し大きくなったら、自分の顔の変形のことをどう捉えるのか、そのことを母親は心配している。

F・ナースチャ 1995年生まれ  
ナログリヤ市

ターナー症候群(染色体異常で、女性だけの病気。通常、X染色体

は女性に2個であるが、この病気の人は1個しかなく、第二次性徴がない。そのためいつまでも体が小さく、いろいろな障害が現れ

る)。成長ホルモン欠乏、成長ホルモン分泌不全性低身長症。甲状腺機能低下症、甲状腺結節。第1段階の僧帽弁逸脱症。左側腎臓の二重体。胸部の脊椎側湾症。出産時に右大腿の脱臼が発見された。脱臼はすぐには整復されず2年間経過した。その後、ミンスク市の病院で治療を受け、ギブスを装着していた。10歳になっても両親はナースチャの背が伸びないことに気がついた。5年前に「ターナー症候群、成長ホルモン分泌不全性低身長症」と診断され、成長ホルモン剤を服用している。2008年11月より別のホルモン剤に代えた。その薬は最近ベラルーシ国内で販売されていないため、ロシアから購入している。1か月分で約15ドルかかる。障害児に指定されている。2ヶ月に1度ミンスク市の病院に検査に行く。甲状腺結節もあり、甲状腺ホルモン剤を服用。これは生涯服用する。

ナースチャは化学・生物・ロシア語が好きで、将来は婦人科医になりたいと思っている。歌を唄うこととビーズ細工、読書が好き。1歳年下の妹ダーシャも甲状腺に問題があり薬を飲んでいる。ナースチャより問題は少ないが、病気がちである。

母親ナターシャは、チェルノブイリ原発から10キロのウグリュ村の出身。事故後強制避難させられた。

その村には今誰も住んでいない。故郷へは1年に1度お墓参りの時だけ行くことが許されている。それ以外は特別な許可がないと行

くことはできない。周辺の村は強制避難させられたが、ナロヴリャ市には事故後もほとんどみなそのまま住み続けている。

ナースチャは検査や治療のため頻繁に病院に行かなければならない。ミンスク市の病院に行くとき、人に運転を頼むと、ガソリン代と謝礼で1回100ドルくらい支払う。

母親は市の障害者センターで働いている。そこには子どもから大人まで障害者が通ってきている。「この町の子どもたちはみんな体が弱い。しょっちゅう病気になっている。心臓欠損だとか甲状腺の病気。チェルノブイリ事故が起きる前はこんなことはなかった。毎日食べているものは、家でも学校でも、みんなこの近くでとれた放射能汚染されている食品。事故後すぐは、プレスト・グロドノ・ミンスクなどから食品が運ばれてきた。今はそういう選択肢がない。あっても高いため、みんな少しでも安いものを買おうとすると、この地区のものになる。事故後1年は、放射線計測器や、研究機関があつて、そこで管理されていた。今は何も検査されていない。土地はもうみんなきれいで、正常だからと。病



気になって、正常ではないということがわかる。医師は患者に、その病気がチェルノブイリのせいだとは言わない。普通の病気ですと。本当のことを言わない」

<町のガイドの説明>「ナロヴリャ市には高濃度汚染地域から

12000人が避難してきました。この町にはチェルノブイリ・ゾーンから避難してきた人のための国からのいろいろな社会保障があり

ます。以前子どもたちは年に2度ベラルーシ国内のサナトリウムや外国(ドイツ・イタリア・イギリス・アイルランド・アメリカなど)で保養ができる特典がありました。この法律は2年前に変わり、今は病気の子どもたちが年に1度国内のサナトリウムで保養ができます。国の支援は人々に対してだけでなく、菓子工場や、森林・農業設備のための支援もあります。投資者も探しています。おかげで菓子工場には最新設備が導入され、40種類以上の菓子を生産し、この町の名物となっています。旅行者の受入れにも力を入れています。5種類のツアーがあります」

この説明を聞いた後で、ナースチャの家族や同行した慈善団体の代表は憤慨した。「聞こえのいいことだけしか言わない。この町のお菓子工場は病気の子どもに何の支援もしてくれない。子ども達のクリスマスプレゼントの支援を頼んでも一度も応じてくれたことがない。国は最新の設備を買うお金があるなら、病気の子どもを助けてほしい」

ナロヴリャ市のすぐ先あるフィジンキ村は、汚染地域ではあるが、人が住むことが許されている。その先にあるスモレゴフ村の住民は強制移住させられ、今は誰も住んでいな

い。墓、学校・お店だった建物が残っている。この村にはナースチャの父親の祖父母が住んでいた。洗濯物が干してある家があるので近づくと、74歳の老婆が一人で住んでいた。ナロヴリャ市に住んでいたが夫が病気になった。治療費を払う為に、誰もいなくなった村にやって来て、避難した人が置いていった牛を飼い、牛乳を売って生活していたという。夫は助けられなかったがそのまま住み続けている。「牛の世話や畑仕事でいつも動き回っているから、私はこんなに元気ですよ。また

たきてください。ここはきれいでよいところですから！」

左の写真はナロヴリャ市にあるチェルノブイリ碑。消えた村の名前が刻まれている。



S・パーヴェル 1989年生まれ  
ゴメリ州エリスク地区ポドガリエ村

脳腫瘍のため2008年に18歳で亡くなった。2006年と2007年夏「希望21」の保養に参加。それまで手足の不自由なことを気にして内気だった彼が、この保養を契機に見違えるように積極的になり、母親もとても喜んでいた。しかしその後、転移を繰り返した。3回手術を受けたが助からなかった。母親「人は、時がたてば悲しみは薄れると言いますが、2年経った

今も悲しみはますます深まり、いつも息子のことを思い出しています。息子のことを日本の皆さんに話してください。息子のことを覚えていてくれる人がいると思うと、それは私にとって慰めになります」



## 黒部ドクターのお話

### 新型と言われたインフルエンザ騒動の反省

昨年の4月にメキシコから始まった、新型インフルエンザの騒ぎはどこへ行ったのでしょうか。その実態がだんだんわかって来ました。

メキシコでは初めにかかった子どもは軽症で済み、ぴんぴんしています。そして、確かに例年とは違うタイプのインフルエンザでしたが、中程度の変化で、症状も軽く経過も普通で、例年のインフルエンザと変わりないか、むしろ軽かったかも知れません。WHOを始め、厚生労働省、感染情報センター、インフルエンザ関連の医学者やマスコミがあおったせいで、大騒ぎになりました。

今、はっきり言えることは、WHOの複数の幹部が、ワクチンメーカーと製薬メーカーから研究費をもらったことで、欧州会議で真相を解明中です。そのために世界の流行のパンデミック(=世界的大流行)レベルが、今から思えば2段階も格上げされたのです。そんなに騒ぐ程のものでは無かったのです。

日本国内でも、同じでした。研究者と関連企業とそれに癒着した官僚がマスコミをあおったのです。最近「利益相反」と言って、関連業界からの研究費、学会へ費用などを受け取った研究者は、その件に関して、学会へ報告し、それに関する発言権がなくなるのが、世界の流れですが、それは日本の学会の3分の1しか明文化されていませんし、されていても実態は違います。

私は、パニックになった人々に負けて、新型インフルエンザワクチンを一部の人に接種してしまいましたが、今年はもうしません。今までインフルエンザワクチンをして来なかったのに、してしまい反省しています。新型はワクチンでの死者も多く、インフルエンザそのものの死者と同じくらいです。

また、子どもの脳症は、下熱剤を使ったか、下熱剤の入っている総合感冒薬を熱が出たから

と、あわてて飲ませたためではないかと推定されます。日本以外の先進国では、下熱剤は使われませんから、子どもの脳症も話題になりませんが、

下熱剤王国の日本では新型で250人ものインフルエンザ脳症の子どもが出て、前のシーズンの28人の8倍にもなりました。それほど、国民がパニックになっていたのです。

今年も流行すると言われていますが、ワクチンも下熱剤も、タミフルもやめましょう。三日の高熱をがまんできれば、ほとんどの人は治りますが、半分の人には咳がひどく残ります。体や精神的な疲労が強い人は長引くことがありますが、死ぬことはまれです。ワクチンやタミフルや下熱剤を使った方が、危険率が高くなります。特に、ワクチンを薦められても、慢性病をもった人は、死の危険がありますからやめましょう。

大阪の調査では、一つの高校の全員調査で、かからずに済むか、かかっても発病しないか、など軽く済む人が多く、典型的なインフルエンザの症状になるのは3分の1くらいだったことが判りました。今は、迅速検査ができて、何でも検査し、その結果軽く済んでいる人も薬を飲まされます。インフルエンザには、ワクチンもタミフルも要りません。予防にマスクもうがいも手洗いも無駄(しているのは日本だけ)です。かかった人で咳が出る人だけ、エチケットとしてマスクをして下さい。

新型インフルエンザは今年の冬も流行することが予測されますが、季節型となり、例年に戻ります。昨年も、本当は騒ぐことはなかったのです。それで大量のワクチンが余り、予算の無駄遣い(これは自民党政権時代の発注)です。ワクチンは今年も生産していますから、今年の秋から出回るでしょう。

黒部信一：吹上共立診療所所長 小児科医師



# ミンスクの便り



ためか、こうした話は聞かれなかったように思います。ロシアでは暑さ自体もさることながら、森林

今年の夏は世界の各地で猛暑や洪水と、異常気象や自然災害が猛威を振るいましたが、ここベラルーシでも7月上旬から一か月以上に亘り、異常な暑さが続きました。

7月・8月は月間の平均気温がいずれも平年を3~6 上回り、計器を使つての気象観測を開始して以来、ベラルーシで最も暑い夏になったそうです。最高気温でもこれまでの記録を塗り替え、8月8日にはゴメリでベラルーシ史上最も高い気温 38.9 が記録されました。ミンスクでもこの日は暑く、37 とこれまでの最高記録でした。

ただ、熱帯夜の続く日本の夏を知る者にとっては、同じ気温でもベラルーシの方がずっと過ごしやすく感じます。それでも今年は夜間の気温が20 以下に下がらない日も多く、住環境によってはかなり厳しい夏だったことは確かです。一般家庭でエアコンを備えていることはごく稀で、あるのはせいぜい扇風機です。職場でもエアコンは無いのが普通で、この夏の労働生産性はかなり低かったのではないのでしょうか。エアコンに比べて手頃な扇風機は、売り切れ続出だったそうです。また、アイスクリームの消費量は暑さのせいで見えて増加し、昨年と同時期に比べて15%増しとのことです(道を歩く人が老若男女を問わずアイスを食べるのは気温が氷点下の冬でも見られる光景です)。暑くなると売れるのはこの他、クワスというライ麦と麦芽を発酵させてつくる伝統的な清涼飲料(風味はビールに通じる)、その他の清涼飲料などで、ビールも含めたアルコール飲料の売り上げには余り影響がないそうです。

アイスや飲み物以外にこちらの人々が涼を求めるのは、川辺や湖などの水辺です。日本では熱中症で亡くなる人がいますが、ロシアの場合、暑い時期の死者という、実は酔って水辺で溺れた人がほとんどだそうです。ベラルーシでは最近公共の場での飲酒が取締りの対象となった

の火災(\*)が各地で発生し、それが集落にも広がって死亡者も出る大きな被害をもたらしました。ロシア語には「焼け出された人(ポゴレリツィ)」という単語が存在しますが、ニュースでは連日「ポゴレリツィ対策」が取り沙汰されています。幸いなことにベラルーシでは、特に火事の被害が広がることはありませんでしたが、地層に天然の燃料である泥炭を含むため、ちょっとした火の不始末が火事につながることはあるようです。タバコの吸殻や、森でバーベキューをして後始末を怠ったために起こった火事は、事後処理に滞りをきたした行政の責任を含め、正に人災なのです。

こうした火事や干ばつは農作物へも影響を与え、スラブ民族が常食としている穀類の中でも、ソバの不足が話題になっています。ソバの実はいり外側の殻を除いた状態で袋詰めして売られており、それを茹でて粥や付け合せにするのですが、隣のロシアで品薄となり、投機的な買い占めなどもあってか価格が高騰しました。これがベラルーシにも波及したのです。ベラルーシは元々ロシアからソバを輸入しており、逆に輸出する余力は無いとして、ロシアからの輸出要請を断りました。ロシアからの天然ガス供給を巡って大騒ぎしていたのに、こんな仕打ちをして大丈夫なのか、心配になってしまいます。

8月の下旬になると、それまでの暑さが嘘のように急激に気温が下がり、涼しいを乗り越して一気に寒くなってしまいました。窓の外を見ると、いつの間にか木の葉が黄色くなって地面で雨に濡れています。喉元過ぎれば、と言うように、こうなると暑かった日々が名残惜しいです。ようやく「バービエ・レータ」と呼ばれる暖かい日々が戻ってきて、一息ついているところですが、やはり夏は終わり。未練を捨てて、長い冬に向けて準備しなくてはなりません。

花田朋子：ミンスク在住

(火災ニュースについては14ページ参照)



## 里親のページ

### 里親からの手紙

ローマ君は病気のせいで食事制限もあるとか、心が痛みます。私の援助が少しでも役に立てば嬉しいです。手紙を書いて送ってみようと思います。(東京都・Kさん)

### 里子の家族からの手紙

親愛なる Y さんご一家へ

経済的に、また精神的に力強く支えてくださり、深く感謝しています。このような優しい素晴らしい友人がいることをとてもうれしく思っています。

息子のワーニャは幼稚園でいろいろなことを学んだり、散歩したりすることが好きです。でも新たな問題が起きました。



矯正用の靴を履かないと今後脊椎に問題が起る可能性があります。この靴は大変高価な上、1年に数足要るのです。まもなく私と息子はミンスク市の病院に目の検査に行きます。息子は眼鏡をかけてもよく見えません。でも彼は一生懸命にたくさんの文字や数字、図形を指でなぞっています。さらに聴覚の検査と、歯の検査も必要です。医師たちもあまりよくない状態だと言っています。

私たちにとってあなたのご援助はとても重要なものです。本当にほんとうにありがとうございます。そしてチェルノブイリ子ども基

金がベラルーシの子どものために医薬品などを支援してくれていることに感謝しています。

(ベラルーシ・モーズィリ市 K・イリーナ)

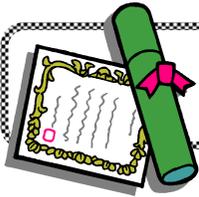
～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～\*～

以前、里子支援を受けていた女性から届いた手紙をご紹介します。

N さんへ 長い間お便りをせず、すみませんでした。1月に児童図書出版社の編集の仕事に就きました。私はこの仕事がとても気に入っています。私と夫は別のアパートに引っ越しました。町の一番はずれにあり、前のところより狭くなりましたが、家賃が安くて住み心地も快適です。やっと将来に向けて少し貯金ができるようになりました。最近甲状腺の定期検査を受けましたが、問題はありませんでした。そろそろ子どものことを考えなければならぬ時期です。両親はもう大分前から孫ができるのを待っています。あなたはいかがお過ごしですか。お便りをいただけたらうれしいです。私はあなたのことをいつまでも忘れず、そしてとても大切に思っています。私のためにしてくださったすべてに感謝しています。(ベラルーシ・ミンスク市 P・リユーバ 25歳)

他にも、里子支援を受けていた女性一人、男性一人がこの秋に結婚式を迎えます。里親からの支援は終了しても、自分たちの様子を知らせてきています。苦しい時期を支えてくれた里親を忘れることなく、とても感謝しています。

里親募集：ベラルーシ・ゴメリ市に住む重い病気を抱えた5歳の女の子。詳しくは事務局までお問い合わせください。



## 奨学生制度

子ども基金では2001年から、甲状腺手術後の学生への奨学金支援を続けています。これまでに支援を受けた87人が卒業、現在支援を受けている学生は11人です。募金の減少などにより、新たな学生の受付はしていませんが、11人の学生たちの卒業まで支援を続けていきます。今年6月に卒業が決まった学生の手紙を紹介します。

この5年間、対外経済関係の分野でスペシャリストとなるために十分に勉強しました。ベラルーシ行政アカデミーの卒業証書ももらえてとてもうれしく思っています。子ども基金の援助がなければ、自分の夢を実現することはできなかつたでしょう。とても感謝しています。今私の前には大きな将来への展望が開かれています。卒業論文に合格するとすぐに、対外経済マネージャーという職務をすすめられました。通信教育で学んでいた5年間、私は民間企業で会計の仕事をしていました。仕事は面白かったですが、自分の専門分野でないことがわかっていました。その上、世界経済危機の影響もあり、会社には困難な問題が生じました。しかし現在状況は安定し、海外の商売相手と貿易をすることを含め、ビジネスの拡大を計画しています。まさに私の専門分野であることから、新しい仕事をすすめられたのだと思います。今後は、簿記に加え他の分野でも自分の力を発揮できるチャンスがあると思います。新しい仕事は、外国のパートナーとのやりとりが



必要です。秋には外国語学校にビジネス英語を習いに行くつもりです。また目下、イタリア語を独学で学んでいます。必ず成功させるつもりです。子ども基金のご援助に、重ねて感謝いたします。(M・タチヤナ ベラルーシ・モギリョフ市)

私はゴメリ商業経済大学経済部を卒業しました。現在、花と種を売る会社で働いています。チェルノブイリ子ども基金の奨学金に心から感謝しています。子ども基金からの経済的支援のおかげで、勉強を続けることができました。この学生支援制度と、子ども基金の皆様に感謝とともにご挨拶を申し上げます。(S・エレナ ベラルーシ・ゴメリ市)

長年、奨学金援助をいただいたことに感謝申し上げます。ゴメリ国立大学を卒業し、生物学者の称号と生物・化学の教員資格を得ました。生物学の専門を生かした仕事に就きたいと思っていますが、現在のところまだ就職先が見つかりません。いろいろありがとうございました。(M・ヴィタリーナ ベラルーシ・ゴメリ市)

## チェルノブイリ被災地へ草の根 無償支援

以前子ども基金がコンピュータと未熟児用の保育器(カテログハウス社の読者募金より)を支援したゴメリ州小児病院へ、日本政府から内視鏡の支援が行われました。

~~~~~  
今年4月2日、ゴメリ州小児病院で日本政府の「草の根・人間の安全保障無償資金プログラム」(以下「草の根無償」)による医療機材供与式が行われ、「オリンパス」製の内視鏡が導入されました。この内視鏡によって、新生児にも消化器官の機能障害を発見することができるようになります。供与式には、ベラルーシ側からゴメリ州執行委員会副議長、同委員会保健局長、ゴメリ州小児病院長、日本側から在ベラルーシ日本大使館臨時代理大使らが出席しました。



平成16年に「草の根無償」を導入して以来、これまでに主にチェルノブイリ被災地の病院への医療機材供与プロジェクトを20件実施。チェルノブイリ原発事故から24年が経過した現在においても放射能の影響は払拭されておらず、住民は放射能障害への不安や地域経済の停滞に悩まされています。地域住民の

診断・治療レベルの向上に繋がる医療機材供与は、人道支援の観点からも非常に重要です。

今年、ベラルーシでは5年に1度のチェルノブイリ被災地のリスト改定が行われ、支援先あるいは支援予定の病院から「うちは今年から政府保障対象から外された」という声をちらほら聞くようになりました。5年や10年で汚染が軽減されるはずもなく、被災地への補助金削減は、政府予算が逼迫していることによるものであることは明瞭です。不可欠なところへ必要な予算が回らないのは残念でなりません。また先日、すでに10年以上ベラルーシで活動している日本企業関係者との話のなかで、たまたまチェルノブイリの話になり、「もう24年も経っているんだから被害なんてあるわけないでしょう、広島・長崎だって、もう放射能汚染なんて言っていないでしょう」と言われ日本人の一般認識はそうなのかもしれないと思いました。私も、ベラルーシに来るまでは被害の深刻さを知らなかったのと同じかも知れません。(在ベラルーシ日本大使館 半田)

## 「チェルノブイリの森」で火災(猛暑ニュースより)

議論を呼ぶ森林火災による放射能の危険性  
環境学者やロシア森林保護庁によると、チェルノブイリ事故によって汚染された森林の一部で火災が発生している。ロシアには汚染地域がおよそ14地区あり、8月9日現在、そうした場所で20件の火災が起きたことを明らかにしているが、特別の危険性はないと見ている。BBC ロシア語 2010/8/11

放射能がモスクワに達する可能性も  
原発事故により放射能に汚染された森林で火災が発生したとの情報を認めた。

NEWSru.com 2010/8/12

この一昼夜間にゴメリ州の3地区で森林火災3件と泥炭火災4件が鎮火された  
一連の火災により、約2ヘクタールが燃えた。ベラルーシ国内では火災危険度が第3レベルに位置



づけられ、東部のゴメリ州とモギリョフ州では第4レベルとなっている。今後数日間の気温上昇に伴い、さらにいくつかの火災危険地域で火災が発生する可能性がある。ベラルーシ非常事態省の全ての機関が、警戒を強化している。

ベラルーシ 国営テレビ 2010/8/12

ウクライナ非常事態省、チェルノブイリ・ゾーン内で火災は起きていないと言明  
ウクライナ非常事態省キエフ州指令本部のオレスト・トゥルケヴィチ本部長は、この異常高温の期間中、チェルノブイリのゾーン内では1件の火災も起きていないと断言した。NEWS ru. ua 2010/8/13

放射能の危険を伝える情報、政府サイトから消える BBC ロシア語 2010/8/13

【補足】現地では火災が起きているという情報と起きていないという情報が乱れており、政府に対して責任追及の声も出ています。

(まとめ・翻訳 平野)

基金のホームページにニュース全文を掲載。「ミンスク便り」にも関連情報が載っています。

# \*\*\*\*\* 募金・救援状況 \*\*\*\*\*

募金状況 2010年6月～8月

|              | 6月               | 7月               | 8月             |
|--------------|------------------|------------------|----------------|
| 募金件数         | 131件             | 303件             | 80件            |
| 救援寄付金        | 2,434,680        | 709,446          | 251,370        |
| 保養費          | 62,000           | 100,660          | 35,000         |
| 特別保養費        | 210,000          | 280,000          | 0              |
| 里子支援         | 55,770           | 1,846,796        | 180,570        |
| '10特別保養賛同金   | 64,000           | 143,000          | 34,000         |
| 通信費          | 30,000           | 52,000           | 14,000         |
| <b>合計(円)</b> | <b>2,856,450</b> | <b>3,131,902</b> | <b>514,940</b> |

☆他に現物寄付(食事券)1,000円分

## ♥ 募金団体名一覧 ♥

紙面の都合上、個人名は省略させていただいております。多くの方々からご寄付をいただきました。みなさまに心より感謝申し上げます。  
(順不同・敬称略)

### 【6月】

原発震災を防ぐ風下の会／つゆくさと大地の会／ナターシャの歌声を聴く会／日本キリスト教会 横浜長老教会／リサイクルグループ カリーナ

### 【7月】

安西メディカル(株)／東用堂治療院／自治労日野市職員組合／千葉友の会／イエス・キリスト教会 祈りの家／うえのはりサイクルの会／三重・チェルノブイリ被曝児童救援募金／実教出版放射能倶楽部／日本キリスト教協議会／一戸南小学校児童会／(株)ソフトウェアクス／日本基督教団事務局有志／東京一般労働組合東京音楽大学分会

### 【8月】

奈良女子大学附属中等教育学校／リサイクルグループ カリーナ／(株)リコー

救援状況 2010年6月～8月

(単位:円)

<ウクライナ>

#### 子どもたちの生存

里子支援 8人(7～12月分) 223,344

<ベラルーシ>

#### 希望 21

特別保養費(子どもの保養) 1,389,098

#### 困難の中の子どもたちへ希望を

運営費(スタッフ給料半年分、現地銀行手数料) 217,354

特別保養費(家族の保養・子どもの保養のバス代) 143,579

里子支援 67人(7～12月分) 1,871,391

奨学生支援 5人 138,565

※一部、5月支援(前号ニュース未掲載)分を含みます。



## みなさんからのお便りコーナー



### 振込用紙より

- 「黒部ドクターのお話」は毎回大変参考になります。(東京都 Eさん)
- 生活に追われる日々を過ごしていますが、カレンダーを見たり通信を読んだりして、チェルノブイリ被災者のことを忘れないようにしています。(愛知県 Sさん)
- 皆さまのお働きに心から敬意を表します。僅かですが職場有志の夏カンパを送ります。ご用のためにお使ください。(東京都 Hさん)
- 8月6日は広島の前爆の日ですね。暑い中式典には多くの方々で毎年いっぱいです。中学校の修学旅行と大学4年生の頃2度、平和記念公園を訪れました。熱中症、睡眠不足、仕事の疲れに負けず頑張ってください。(東京都 Mさん)

### お便り

※一部抜粋させていただきました。

○チェルノブイリから 24 年たちましたね。人々が忘れかけている現在においても、無情にも放射能は出続け、たいいけな子ども達を苦しめているという不条理。(子ども基金) ニュースで報告されているのを見るのはつらく、逃げて、ニュースを見たくない気分になることがあるくらい、チェルノブイリの子ども、親の方の苦しさが伝わってくるようです。また子どもたちがかわいから余計にたまらなく、やるせない。ニュースは数少ないチェルノブイリの生の情報です。まずは知る、つらいですが現実を知ろうとするとところから始まると思いました。(高知県 青木孝道さん)

# 事務局から

## ボランティア募集

事務局では、毎月第1・3土曜日の午後1時半～5時半、ボランティアの方に事務作業などを手伝っていただいています。

**ニュース発送作業(年4回:3・6・9・12月)**  
12/18(土)午後1時～4時頃まで 東京ボランティア市民活動センター(飯田橋駅ビル セントラルプラザ10階)。少しの時間でも歓迎です。

ボランティア参加希望の方は、日程が変更になる場合もありますので前日までにご連絡ください。

【問い】平日午前10時～午後5時半 留守の場合は伝言をお願いします。T&F 03-5228-2680

## ニュースについて

募金をくださった方には、使途の報告を兼ねた“ニュース”を原則1年間お送りしています。また、ニュース購読費(2,000円/年)も募っております。印刷・発送などの経費の残金は、募金として使わせていただきます。

## チェルノブイリ報告会

～汚染地に住む子どもたちは今～

10月9日(土) 13:30～15:30

会場/文京区民センター(東京都文京区)

参加費/無料

夏の保養・里子の家族訪問/佐々木真理

チェルノブイリ原発訪問/齋藤武光

映像を交えて報告します。

詳細はチラシ(一部地域のみ同封しました)をご覧ください。

佐々木の報告は下記イベント内でも行われます。

**一日ロシアカフェ<スパボ> 第二弾**

～ルーシのしらべ

10月3日(日) 開場12:00 開演13:00

会場/阿佐ヶ谷ロフトA(東京都杉並区)

入場料など詳細は主催者にお問い合わせください。

ロシア雑貨店マリノカ Tel:03-3565-3205

ロシア雑貨店パルク Tel:03-6479-3658

2011年 カレンダーチラシを同封しました

いつもあたたかいご支援をありがとうございます。振込用紙・領収証につきまして、みなさまにお知らせとお願いです。

すべての方に振込用紙を同封しております事務作業の都合により、まことに勝手ながらすべての方に郵便払込用紙をお送りしております。すでに通信費・寄付金を納入された方はどうぞご容赦ください。

住所変更の方はお知らせください

新旧両方の住所を、葉書・FAX・Eメールまたは払込票の通信欄にてご連絡ください。また、通信が二重に届いている場合、ご家族で連名による一通送付でもよい場合なども同様にお知らせください。

払込取扱票のお名前・ご住所は

楷書でわかりやすくご記入ください

郵便局からは払込取扱票のコピーが届きます。文字がかすれて判読しづらい場合がございますので、楷書でわかりやすくご記入ください。

「受領確認の葉書」をご希望の方へ

通信費・寄付金を納入された方で、受領確認の連絡をご希望の方には、葉書(金額は記載せず)をお送りします。振込用紙の該当欄に印をつけてください。

「領収証」が必要な方へ

郵便局払込取扱票の「払込受領証」は公に認められる領収証です。大切に保管ください。別途領収書がご入り用の際はお申し出ください。

ご不明な点がございましたら問い合わせください。

今年のベラルーシの夏は、これまでにない異常な暑さでした。「希望21」は町から離れた自然に囲まれた場所にあるため、高温でも日陰や水辺にいればなんとか耐えられました。南に位置するゴメリ市などでは連日36～38度。もともと夏でも朝・晩は涼しいため、このような暑さに慣れていない人々は大変です。雨不足と高温のため、野菜の収穫にも影響が出ていました。店では扇風機もエアコンも品切れということでした。エアコンを購入・設置するにはおよそ800ドル(ベラルーシの平均月収は370ドルと言われている)、一般庶民には手の届かない品物です。(さ)

発行人 チェルノブイリ子ども基金 鈴村 稔 発行日2010年9月25日(年4回発行)

〒162-0816 東京都新宿区白銀町25メゾンド原207号室 Tel / Fax 03-5228-2680

郵便振替口座 「チェルノブイリ子ども基金」 00160-4-98316

ウェブサイト=<http://www.smn.co.jp/cherno/index.html> e-mail: [cherno1986@tokyo.email.ne.jp](mailto:cherno1986@tokyo.email.ne.jp)

事務局ブログ更新中 神楽坂事務局だより <http://blog.goo.ne.jp/cherno1986jimukyoku/>

当基金は任意団体のため、ご寄付は税金控除の対象とはなりません。ご了承ください。